

学校教育目標

笑顔で

かしこく

たくましく

# 上谷の丘

～ 本当の笑顔と学びがある学校を ～

坂戸市立上谷小学校 学校だより

令和2年 11月16日 NO.17

文責 校長 柴崎 利美

児童数190名(11月16日現在)

## 私たちは日本で生きています

～ 日本の文化・風土・自然の恩恵を受けて学んでいます ～

何を当たり前のことを…と思われるかもしれませんが、アメリカの大統領選やアジア諸国の情勢を思うと、不安に駆られる時が多々あります。日々忙しく生活している私たちですが、平和な暮らしを支える母体は「日本」という国にあるんだと確認する時がないといけないと思います。世界のどこでも「こんな暮らし」ができる場所は、ここにしかないのです。



以下、11月のお話朝会から

おはようございます。今日は、令和2年度5回目のお話朝会です。大事な事を3つに分けて話すので、よく聞き取って、お話が済んで教室に戻ったら、覚えたことを、できるだけ順番に正しく書いて下さい。今回は「私たちと日本」について話します。始めは「日本が世界に自慢できるもの。」です。1. 機械や物を作るのがとても得意な国です。2. 美しい自然とおいしい水がある国です。3. 天皇が千年以上も前から代々続いている国です。次に「日本は地球のどこかな。」です。1. 日本の東には太平洋があります。2. 日本の西には韓国や中国があります。3. 日本は人の形のような小さい島国です。最後に「日本について3つ答えてください」です。1. 日本でステキな所を教えてください。書いて下さい。2. 日本にしかないものを教えてください。書いて下さい。3. 日本人で立派だなと思う人を教えてください。書いて下さい。今日は「私たちと日本」について。1「日本が世界に自慢できるもの」2「日本は地球のどこかな」3「日本について3つ答えてください。」をお話しました。覚えられましたか？ これで校長先生のお話を終わります。

聞き取りは難しいと思います。子供たちは集中して聴いていますが、教室まで保持するのが難しい。記憶を文にして書き出すという、少々荒療治的なことを続けています。そして「正確に聴き、書くこと」がそのまま目標であり目的でもあります。「よくまあここまで聴き取った」と言う児童もいれば、単語が断片的に書かれている児童もいます。それでOK。1つ正確に聴き取れ書けたならば、次は2つ正確に聴きとり書けるようにすればいいのです。

## 学校薬剤師 宮川先生にCO<sub>2</sub>濃度測定器 をいただきました

11月11日(水)に宮川先生が来校。冬場の良好な教室環境の維持、換気対策にということで、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)濃度測定器をいただきました。10月も来校時に、コロナ対策を大いに語っていただきました。活用させていただきます。ありがとうございました。





## にこにこ新聞 … 頑張ってます。

…代表委員会にエール

6年代表委員会を中心に、「にこにこ新聞」、継続中です。昔で言う「児童会新聞」と同じです。とても楽しい内容で「ほのぼの」します。子供たちの活躍が見て取れます。今現在、教育相談期間中（～11/13）ですが、多くの保護者の方が見ていかれるのでいいタイミングです。ぜひお家でも話題にしてください。昇降口は上谷っ子の掲示物が盛りだくさんなので、鏡（姿見）にまではみ出しています。

## 「月とうさぎ」 昼の放送劇第2弾



今回は5年生。6年の「しあわせな王子」に続き、2回目の取り組みです。

お話が短いので、2回の放送、配役固定で行いました。あらすじは～昔々、仲良く森に暮らすきつね・さる・うさぎのもとに、お腹がすいて死にそうなおじいさんが現れました。みんな、おじいさんのために木の実や魚をとってくるのですが、うさぎだけは何も取ることができません。冬になり、きつねやさるも食べ物をとることはできなくなりました。うさぎは悩んだ末、自分をおじいさんに食べてもらおうと焚火の中に身を投げます。そんなうさぎを哀れに思ったおじいさん（神様）は、うさぎを月の世界へ送ったのです～。5年のどの子も、なかなかの語りっぷりです。「この子、こんな話し方、雰囲気を作るんだ…」と新たな発見もあります。企画・台本・練習で関わる校長先生も楽しいです。ただ、演劇でできないのが悔しい。



（ どの子もかなり緊張… ）

## 埼玉県学力・学習状況調査 ～ 個人の伸びが大切 ～

上谷小全体の数値だけ見ると凸凹していて決して華のある結果ではありませんが、日々の皆さんの取り組み・先生方の努力を見ると、どんどん伸びていくであろう「予感」がします。多くの先生方もそう感じています。ウソではありません。埼玉県では、学年をまたいで個々の児童生徒が「どれくらい伸びたか」に評価の重点を置いています。担任の先生からの説明で「あ、私こんなに伸びたんだ…」と伸びを実感した児童は多いと思います。

「今私はこれだけ出来るからからいいや。言われたところまでやったからいいや」といった、これから勉強が苦手になるような「守りの勉強」ではなく、「気付いたら〇〇までできていた、これはいいぞ。面白いからあと一つやってみるか。ほんとはやらなくていいけど。」というように「攻めの勉強」へと、気張らず、息を吸うように取り組めるのが理想です。なにしろ一生勉強していく時代（生涯学習）ですから。好きか嫌いかは人生の大きな分岐点です。大人になって昔、成績はバツグンだったけど、今は本も読まない。勉強キライ…仕事もキライ。では、その子の教育は失敗だったと言わざるを得ません。こんなに悲しいことはない。気張らず学習に取り組み、「お、そうか！」と思うのと同じくらい「遊びが大好き」。そんな素直で明るい上谷っ子は、伸びしろは十分であると校長先生は大まじめで思っています。

